

## 会議記録

会議件名	第2回掛川市子ども・子育て会議
日時	平成31年3月18日（月）13:30 から 15:15
場所	全員協議会室
出席者	子ども・子育て会議委員 12人（6人欠席、内2人は代理出席） 事務局 14人

### 会議の概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ 山本会長より

皆さんこんにちは。平成30年度最後の子ども・子育て会議になります。平成時代31年間ございましたが、私の印象としては、災害に明けて災害に暮れたと申し上げてもいいかなと言う気がします。数えてみましたら、大きいものだけでも11回ございました。特に大きかったのが、平成7年の阪神・淡路大震災、その間にもいくつかございましたが、平成23年には東日本大震災がございました。その後、平成26年から立て続けに豪雨災害という自然災害が毎年起こっていたという感じです。その中で子どもたちが命を落としたこともございますし、大変寂しいことだったなと思います。それから、子どもの分野に目を転じてみますと全般的に申し上げて、今まで行政が行う措置というやり方がございましたけども、措置がほとんど外れて廃止ということになりまして、特に一番大きかったのが平成10年だったでしょうか。保育所の入所が措置から選択へ大変大きく変化をいたしました。その後、児童養護施設ですとか、いろいろな児童福祉施設が自立支援という言い方をするようになりました。入っている人たちが最終的に自分の力で立ち上がっていくようにということで、自立支援という言葉が使われるようになりましたが、ちょっと誤解がありますのが、自立といいますと、これは高齢者でもそうですが、1人で動いているのが自立というイメージが強いですが、決して自立というのはそうではなくて、実はいろいろな人との関わりの中で自立をしていく。自分なりの考え方を作りあげ向上していくという。こういう発想が大事なのではないかなという気がしています。これは報道でしか目にする或いは耳にすることができないですが、児童虐待の部分が数的にはそんなに多くないかもしれませんが、中身をみるとこれで親なんだろうかと疑いたくなるような児童虐待もございました。それをどうにかして未然に防ぐような対応を全てでとっていかないといけないのではないかなと感じています。本日は報告事項等いくつかございますので、それぞれの立場からご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### あいさつ 浅井副市長より

皆さんこんにちは。年度末のお忙しい中をお集まりいただきましてありがとうございます。第2回子ども・子育て会議よろしく願いいたします。日頃から子育て施策にご尽力をいただいておりますことを感謝申し上げます。

いくつか報告をしたいと思います。先ずは人口のことですけれども、総務省の住民基本台帳ということで発表がありました。掛川市の外国人も入れて324人の転入超で、県内第1位ということで報道がありました。日本人だけの数字においても長泉町が1番で、掛川市が2番でありました。人口減少社会と広く言われている中ではありますが、掛川市は横ばいから上昇にあるということで、大変うれしく思っているところです。働く場所があって、教育や福祉、文化、環境、そうしたところがよくて、住みやすいまちということで、転入の方が多くなっていると思っています。

次に10月からの幼児教育・保育の無償化が大変大きな課題になっています。まだ法案を国会で審議中ということですので、詳しいことは私どももわかっておりません。きちんと無償化に向き合って推進できるよう進めてまいります。この影響もあって保育ニーズの増加もあり、昨年度から比べると186人希望者が多く、全部で2,544人が希望されています。幼稚園の預かり保育の利用枠を含め、定員も少しずつ増やしてきましたので、定員上はこの人数を飲み込める数字となっております。

が、実際には、希望園の偏りや保育士不足により、定員まで受け入れてきていない園もあり、先月末に第2次入所調整後の入所保留者が219人に上ります。現在、最終の入所調整を懸命に進めて、出来るだけ多くの方が園に入れるように調整をしているところですが、最終的にどうなるか大変心配をしているところです。この後説明もありますが、そういう状況ですので、小規模保育園2園を整備することとしましたので、御理解をお願いします。

次に、子育て支援の施策についてですが、待機児童解消の対策については、4月にすずかけっこ保育園が拡張され定員90人が増員されます。また、今御報告しましたが、定員19人と12人の小規模保育事業所2園が開園します。それ以外にも、こども広場あんりの定員変更や、おおさかこども園の開園によりまして認可定員を171人増員し、2,519人となります。企業主導型保育事業は、4月に定員16人、10月に定員19人の保育所が開園する予定であります。更に、保育士や幼稚園教諭が不足していますので、人材の確保策として初めて行う施策ですが、就職に係る必要な費用を一人当たり20万円貸し出し、一定の年数お勤めいただければ、返さなくていい事業を新年度から実施しようと、議会に上程しているところです。また、更なる取り組みとしては、南西郷地内に平成32年4月の開園に向けて、春献美会が定員138人の認可保育園の施設整備や、智光幼稚園の認定こども園化による75人の保育定員の増員を支援していきます。

次に大東大須賀区域認定こども園化の推進については、「おおさかこども園」が4月に開園します。「ちはまこども園」は平成32年4月に開園し、更には「(仮称)横須賀認定こども園」の用地取得、「(仮称)大淵認定こども園」や「きとうこども園」も、順次開園していくということで、準備を進めてまいります。公立幼稚園と私立保育園の職員人事交流も併せて行ってまいります。職員の質の向上を目指しているところです。

また、「かけがわ乳幼児教育未来学会」から「今後の乳幼児教育のあり方」について提言が提出されました。提言では、職員の質の向上を図りながら掛川らしい乳幼児教育・保育のあり方を推進するよう提言がされています。この他に、5月に長谷地内に小児科クリニックに「病児保育室はぐるーむ」が定員5人で開設されます。生後6ヶ月から小学校3年生までの児童が対象で、保育園などからの送迎サービスを行う予定であると伺っています。

本日の会議では、平成32年度から5年間の「第二期掛川市子ども・子育て支援事業計画」策定に伴うニーズ調査結果の概要を報告させていただき、次の計画の御意見等をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 報告事項

- (1) ニーズ調査結果の概略について  
別紙資料について、事務局より説明

#### 質疑

委員 8ページの間37、掛川市がとるべき施策についてですが、支援センターのアドバイザーとして月2回ほど保育園へ行っています。ワンポイントアドバイスをしたり、悩み相談を聞いたりする中で、「保育園に入れなかった。どうする。」「どこか預けるところないかね。もう1人どうする。生む。誰かが入れれば誰かが落ちるんだよね。人間不信になりそうだね。」というような話がいっぱい出ていました。入園するに選考基準が沢山あり、こういうのがあるんだと初めて知りました。保育所だけでなく老人施設に入るにも基準があります。やはりどこかで線を引かないと困るだろうな。こういう基準の中でこうしてますよと言えばそれも仕方がないことだしな。このお母さんたちには1年我慢して子どもと遊ぶのもいいかもしれないね。会社はどうすると言ったときに「何とかする」と言葉が出たので、「何とか出来ればいいじゃん。人間なんて100%満足してないんだよと、どこかの先生も言ってたよ。50か60で我慢しなきゃね。」って言ったら、「わかった」と言っていました。4月から開園する「おおさかこども園」へも入れなかった。まだまだ悩んでいる人たちがいるんだなと思いました。

- (2) 施設整備の状況  
事務局より説明

質疑

(代理) 企業主導型保育事業の定員わかったら教えていただきたい。

掛川市 1つは4月にオープンしますが、たけのこ保育園でグランドホテルの近くに出来ます。そこが定員16人です。そして10月の予定ですが、定員19人の計35人ということになります。

(3) 乳幼児教育・保育の在り方、無償化、義務化（提言）について  
別紙資料について、事務局より説明

質疑

会 長 この提言は広報みたいな形で、掛川市民の皆さんに公表するというのは何かもうお考えでしょうか。

掛川市 提言を3月1日にしたときにマスコミの方たちも来ていただきまして、新聞や時事通信の方にも載せていただきました。今後の予定としまして、市のホームページの方へ提言をいただいたということでの紹介と、議員さん等にもお配りしてということ考えています。

会 長 調査結果の報告の中で、掛川市における子育て環境や支援の満足度のところで、これは、場合によるとお答えになる方がどういうところで、満足か満足でないかチェックをするのがなかなか難しいところなんです。例えば「満足派」は就学前の人たちが24.9%、小学生の保護者の方が約17%という数字で、もうちょっと高く出るかなという気がしましたが、現実的に自分のところで保育所に入れなかったという、これは不満足となってしまう可能性があるかもしれませんが、県内の自治体で、全体を通した考え方をみんなで協議する或いは現場の保育士或いは幼稚園の先生或いは保育教諭、そういう人たちの全体研修みたいなところまで、踏み込んでやっているところはあまりないんじゃないかと思うんですが、この辺のところは、市の方としてはどういうふうはこの数字をお考えになってらっしゃるか。もうちょっと高くてもよかったんじゃないかっていうあたりでも結構ですが。

掛川市 前回の調査と比べると、満足度はほぼ倍くらいに上がってはますが、まだまだ市がやっていることが足りないということの数字の表れかなと思っております。求められている施設整備もあります。いろいろな場面でいろいろな情報が入ってきているというのも市が考えていることが伝わっているという形にもなっていると思いますので、情報提供も含めて、これからの施策に生かしていきたいと考えています。

掛川市 各園の方で保護者を対象に満足度の調査をしております。公立については90%を超える結果が出ております。私立の方でも調査をしているところを合わせても70%以上の方たちが満足をしているという結果が出ているということで、在園の園運営に対しては、ある程度評価はいただいていると認識しております。

(代理) 無償化でお伺いしたいところがあります。預かり保育や給食費等々も絡んでくると思うんですが、その辺というのもこれから議論しながら練っていくということでもよろしいでしょうか。

掛川市 詳細につきましては、まだ全てが明らかになっていないといえますが、方向性についても少し話を詰めていく形にはなりますが、今出てきている情報ですと、市町と園の方にもとりまとめをお願いしたりという事務作業が増えていくような様子になっていますので、その辺は明らかになり次第、説明させていただきお願いしていきたいと思っています。

委 員 ある親から保育園の土曜・祝日を希望し「あなた今日1人なんだけども3時頃にお迎えに来てくれませんか」と言われたと、「家、誰もいないから」と言ったら、「また今度の土曜日1人になってしまうけれども何とかありませんか」と言われたと、そういう相談がありました。そのお母さんは、土曜も祝日も出ないといけなような仕事に就いていて、今年1年生にお兄ちゃんが入ってしまう、下の子が保育園へ行く。1人だけになっちゃうから何とかしてくださいと言われるのがわかっているから、仕事を変えようかなというお母さんもいた。満足度の調査やったら、このお母さん不満足の方へ答えたかなと、今思いながら見せていただきましたが、私のところの学童1人でも見てやらないと、何かがあったときに「先生のところで見てくれなかったから、こういう事故が起きてしまったんです」と言われちゃいけないもんですから、1人でも受けて保育をしております。確かに今4月に利用する集計を出していますが、土曜日とか祝日が段々少なくなっているのかな、それとも企業の方で見てくださっているのかなとか、ちょっと変わってきたのかなと感じている今日この頃です。

掛川市 確かにそのようなご相談が、年間で何件かはこちらにもあります。その都度、親御さんには対象の園にこちらからお伝えしていかうことで、「いい」とおっしゃっていただける方には園の方にそういったお話があったということで、伝えていきます。基本的には、園は認可の保育園であればその届け出をしまして、この期間はやらなければいけないと決まっているものですから、そこについて希望があれば例え1人でもお受けしていくという基本的なところではそうなりますから、そこについては親御さんが仕事でどうしてもみれないということであれば、そこは受けていかなければならないかなということ、うちの方としてもそういった指導をしていきたいと思えます。中にはご自分がお休みの時にお子さんは預けて自分という方もいるので、園側としては、そういう親御さんの教育とかそういう観点でお話しをする場合もありますが、今みたいにお勤めの場合にはそういう形。基本認可の保育園でも祝日はやっていないところが結構多いです。土曜日は基本保育を受けてたり、日曜日もやっているところはあるんですが、その場合には祝日をやっている企業主導型のところのご紹介をしたり、という形で対応をさせていただいています。

掛川市 私も知り合いのお母さんから、「土曜日になるべく預からずにお母さんと一緒に家庭で保育してくださいよというお話があるので、何とか言ってくれませんか」というお話しを直接聞いたことがあります。確かに制度上は認可の保育所であればオープンしなければならないというのがあります。働き方改革という大きな全体のテーマに繋がっていく話ではないかなと思っております。今、保育士さんがなかなか現場に勤めてくれないという中に、仕事がきつい、休みの日に休みが取れない、といったことも大きな社会問題になって保育士が確保できなくて保育枠も確保できないところに繋がっているというのもございますので、保育園側も働き方改革をして、働きやすい職場にしないといけないというのがあります。ですが、保育所の本来の目的でいくと、きちんとお子さんを安全に預けて安心して仕事に行けるような役割ももっているという。これは大きな課題でどこかの園や会社が頑張れば何とかなる問題ではなく、日本全体の仕組みが段々変わっていかねば解決していかない問題ではないかなと思っております。そういった中で、今の資料は預かるばかりでなく、働く会社側も子育て支援に関してできるだけ、社員さんが子育てをしやすいような制度づくりなどにご協力いただきたいという働きかけもしてございます。新聞を御覧になった方もいらっしゃると思いますが、子育てに優しい事業所の認定制度なんかも取り入れまして、行政サイドとか園側だけが頑張るのではなく企業さんにも頑張ってもらいたいなら、全体で子育てしやすいまちを目指していきましょうという方向で、一方では努力させていただいておりますので、そちらも一生懸命進めていかなければいけないなど、お話しを聞いて改めて思いました。

#### 4 協議事項

##### (1) 利用定員について

別紙資料について、事務局より説明

##### 質疑

委員 利用定員のトータルの数字というのは年々増えています。再編するにあたって、300人規模というところが多いです。果たして300人が適正な規模なのかどうかということ。幼保園化を進め、もう15年くらい経っている。その当時にだいたい300人か340人か、その数値をどのように導き出したのか当時は関わっておりませんでしたので知りません。ただ、実際に私は300人の子どもを預かってみて、どう見ても多いなと思いました。ですから、私は認定こども園化したときにちょっと減らしたんですけども、それでも個人的にはまだ多いと思えます。何人が適正かというのは、それぞれの考え方もあるので、一概には言えないところとは思いますが、今、掛川市の小学校が平均して何人ですか。私は数値は持っていませんけども、あるエリアの小学校は、600人くらいです。でも、もう1校は今100人切ってるかなということ。単クラスの小学校が今かなり増えているはず。単クラスの小学校ということは、仮に30人いたとしても6学年で180人です。そうすると半分近くということなんです。そうすると0～6歳の小さい子のいるところが、300人というのはどうなのかなということは常々考えています。ある程度の人数が集まった方が運営としては効率的なのかなとは思いますが、子どもを育てるというのは、効率だけを優先してはちょっといかんかなということを感じます。これも私そんなに

詳しくないんですけども、子どもに対して基準の面積というものがあります。それって子どもに対して考えてあるはずなんです。ですから0歳が一番広い範囲でとってますけど、3人に1人職員が必要です。0歳の子どもを18人預かりましたよといったら職員6人いるわけです。6畳の部屋に大人6人1日居たらちょっとストレス感じません。そういうこともあるんです。そこまで考えていたらどんだん園が大きくなってしまって、現実的に設置の方も無理になってくるんじゃないかと思います。そこら辺が本当にどうなのかなというところなんです。幼児に関してもこの認定子ども園なんかは180人とか150という数字です。1号、2号合わせれば200超えている園が多いと思うんですけど、それだけだって小学校より大きいわけなんです。そうするとそれが適切なのかというのは、ちょっと考えてみなくちゃいけないことじゃないかなと思います。大きくなればなるほど職員の数は増えますが、例えば今掛川市でも、支援が必要な子が約12%いるんじゃないかと言われてます。そういう子たちというのは、集団が大きくなるのが苦手なんです。3人ならいいけど10人になっちゃうとちょっとというタイプの子が沢山います。子どもの数が多くなってくると刺激がどんどん入ってきますから、そういったものを含めて、ちょっと300人というのは、今もう南部の方まで建設計画できてしまっていますので、今すぐどうこうという話ではないんですけど、小さくしろという園を増やさないといけませんし、難しいことではあるんですけども、ちょっと1回立ち止まって考えてみるのもいいのかな。それを考えるのがこの子ども・子育て会議の1つの役割と思う。

掛川市 ご意見ありがとうございました。南部の方は平成28年に大東大須賀区域認定こども園化推進委員会から再編の枠組みや想定される園の規模も出されております。そこから年数も経ち、南部の方は比較的子どもの人口も減っているということと、待機児童も北部よりは出ていないという状況もありますので、おおさかこども園は300人定員で開園したわけですが、今後の続く園については、最新の数字も見ながら定員の見直しもしていきましょうということで、運営する法人さんとはお話しをさせていただいております。また、今後新しくできてくる園についても、そこら辺も踏まえて規模を考えていきたいと思っております。

掛川市 小学校の子ども数、平均でどのくらいかということなんですけど、正確な数字を持っていないので申し訳ないんですけど、9学年でほぼ1万人くらいいますので、各学年平均すると、だいたい1,100人くらいかなと思います。1年生から6年生まで合わせますと6,600人と考えます。小学校22校ありますので、6,600を22で割ると300という数が出るかなと思います。

## 5 その他

委員 私は次世代育成行動計画のときもこういう会に参加させていただきました。仕事と子育ての両立についていろいろお話しの際に参加させていただいて、その中であるお母さんが離婚をし、いろいろな問題があったんですが、そのお母さんに正規で働くように頑張るといったら、土曜日・祝日勤務が出来れば入れてくれるんだけど、もう10社だめでした。じゃーその子をみてあげるからって言ったら、先生1つだけ入れるところがあったって言って、それから後はずーと子どもとは年賀状のやりとりはしていたんですけども、今年の年賀状に「ご無沙汰しております。先生に正社員の仕事を探すように進めていただき、勤続12年目になりました。会社より勤続表彰で旅行の券をいただき、初めて3人で1泊の旅行に行ってきました。子どもたちの笑顔に先生に感謝しております。」こういう年賀状が届きました。報告です。

会長 ご紹介をいただきましたけども、これがどうということではないんですけども、ちょっとしたきっかけがいろいろ大きく変化をしていって、そしてそういう年賀状に「よかった」ということが1つでも2つでも実現できていくといいかなという気がいたしまして、あえて、ご紹介をいただいた次第でございます。ありがとうございました。

最後の締めになります副会長から皆さんを代表させていただいて印象等を一言お願いをしてこの会を閉じたいと思います。よろしくお願ひします。

副会長 2年間、子ども・子育て会議の方へ参加させていただきましたが、今日のニーズ調査の結果報告とか、いろんな方向から子育て支援ってなんだろうかなっていつも考えているんですけども、世の中待機児童が多いと市では保育園を増設したりして、保育園を増設すると今度は保育士が足りないとか、どんだん子育てに関する問題が増えてる中で、子どもたちの育ちが一番基本なんですけど、児童館に来たお母さんが、「みんな周りのお母さんが働き出してる。私、子ども見てて良いのかな」というお母さんの声を2・3回聞きました。「働くのが当たり前になってくる世の中で、

子育てって世の中で一番大事な仕事なんだよ、その仕事を今お母さんやってるんだから自信を持って子育てに専念した方がいいよ」というお話しをさせていただいているんですが、何か世の中もう一度基本に戻って考え直すと、いろんな問題が解決していくのではないかなと思ってます。ちょっと古い考え方かもしれませんが、最低3歳までは、お母さんの元で子どもは育つのがいいかと思っています。もちろん働いているお母さんも経済的な面とか、働きざるを得なくて働いているお母さんも沢山いますけど、中には自分が輝きたいというお母さんも増えてまして、子育てするよりも子どもを保育園へ預けて働きたいというお母さんの声も聞かれます。やっぱり子どもの育ちが基本だと思いますので、もう一度振り返って子育ての基本を考え直して子育て支援が出来ていったらいいかなと思ってます。皆さんのいろいろな意見を聞かせていただいて、ありがとうございました。

会 長 ありがとうございました。この3月で2年間の任期が終了となります。皆さん委員として、いろいろなお立場から御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。先ほど、未来学会の掛川としての提言と申しましょうか、こういうものもある意味で言うと子育て支援の根幹に関わる部分だろうと思いますので、いろいろな形で広報していただいて、1人でも多くの市民の皆様にご覧いただくということが重要だろうと思いますので、是非その辺は事務局として一つ前を見てやっていただけたらと、こんなふうに思います。2年間大変ありがとうございました。

6 閉会